

出資団体台帳

出資団体名	39.株式会社サンサンあさひ
-------	-----------------------

所管課	商工振興課
-----	-------

(令和5年4月1日現在)

①法人分類	株式会社 ()		
②業務分類	観光・レジャー ()		
③主な活動範囲	市内規模 ()		
④所在地	高山市朝日町万石150番地		
⑤設立年月日	平成16年12月3日		
⑥従業員数	役員	(常勤) 0人	(非常勤) 9人
	正社員	(常勤) 1人	(内出向) 0人
⑦役員等	役職名	氏名	市所属・職位
	代表者		
	役員		
⑧資本金	18,000 千円		
	出資者	資産種別	出資額 出資割合
	高山市	出資金	8,750千円 48.6%
	他自治体		0.0%
	その他	出資金	9,250千円 51.4%
	【備考】		

⑨設立目的			
	定款に掲げる主な事業内容	現在の実施の有無	主な受益者
	道の駅関連施設の管理運営に関する事業	実施 理由 ()	観光客
	観光案内に関する業務	実施 理由 ()	観光客
	キャンプ場及びその関連施設の管理運営に関する事業	実施 理由 ()	施設利用者
	飛騨地方の地場特産品の販売	実施 理由 ()	事業者
	農林畜産物の加工及び販売	実施 理由 ()	事業者
	各種イベントの企画運営管理	実施 理由 ()	地域
	民芸品の販売	実施 理由 ()	事業者
	飲食店の営業	実施 理由 ()	施設利用者
	野菜類、果樹類、魚類の加工品の製造及び販売	実施 理由 ()	事業者
		理由 ()	
⑩地域の関わり	朝日地域における観光振興や地域振興に関わる事業を展開し、観光交流による地域活性化と地域産業の振興を図っており、地域住民からの出資や役員就任により運営されている。地域農産物の販売や観光協会等との連携など、地域住民の関わりも強く、地域の雇用促進にも繋がっている。		
⑪市民の関わり	市民の利用が多い、多目的施設の「こだま館」「やすらぎ館」の維持管理・運営の指定管理を受けていることや、地域の農産物や工芸品を直売所において販売していることなどから、市民との関わりは深い。		
⑫経緯	<p>出資時の状況</p> <p>H12 朝日村が道の駅ひだ朝日村の開設にあたり、資金30,000千円（100%）を出資して財団法人サンサンあさひを設立し、売店・食堂の営業等を始めた。</p> <p>その後の経緯</p> <p>H16.12 民間主体の法人とすることにより、更なる事業の拡大を図るため、資金8,750千円を出資（従前の財団法人への出資金は清算）して第3セクターとして株式会社サンサンあさひを創立し、現在、関連する各施設の指定管理者となっている。</p>		

①事業	②市事業	③種別	④業務内容、状況、課題等 (施設がある場合は、施設ごとの状況、公共施設等総合管理計画における方針を記入)	⑤事業収支	⑥定性的評価		
					市による 関与の必要性	民間による 代替性	事業の 採算性
高山市指定管理業務 「道の駅ひだ朝日村」	○	指定管理事業	【道の駅ひだ朝日村】☞「継続」 〈売店〉 飛騨の土産品等を販売。年間収入26,000千円前後で推移しており、良好な経営状況である。	黒字	有	無	有
			〈食堂〉 地元で採れたよもぎを使用した、よもぎうどんを販売。年間収入14,000千円前後で推移しており、良好な経営状況である。	黒字	有	無	有
			〈農産物販売所〉 6月～11月上旬まで旬の地元農産物を毎朝販売。年間収入も2,000千円前後で推移しており、良好な経営状況である。	黒字	有	無	有
			〈特産品販売所〉 特産品のよもぎ団子、よもぎ五平餅のほかソフトクリームなども販売している。年間収入は約1,500千円であるが、年々売上を伸ばしている。	黒字	有	無	有
			〈こだま館〉 屋内の多目的施設で、ゲートボールや野球の練習、イベントの開催など多目的に使用されている。	黒字	有	無	無
			〈やすらぎ館〉 木造建ての古民家。古民家を利用したイベントなどに使用されている。	赤字	有	無	無
高山市指定管理業務 「胡桃島キャンプ場」	○	指定管理事業	〈キャンプ場〉☞「譲渡」 〈ロッジ〉☞「高トレ施設として継続」 コロナ禍のキャンプブームの影響もあり、647サイト(1,453人)の利用がある。	黒字	有	無	有
道の駅管理(トイレ・情報棟等)	○	受託事業	【道の駅ひだ朝日村】☞「継続」 道路通行者の安全確保を担っている。	黒字	有	無	無
グラウンドゴルフ場		団体事業	グラウンドゴルフ場は平成26年4月にオープンし、大会や練習などに使用されている。	黒字	無	有	有

(1) 貸借対照表		(平成31年3月31日)		(令和2年3月31日)		(令和3年3月31日)		(令和4年3月31日)		(令和5年3月31日)	
項目	A	平成30年度 第15期		平成31年度 第16期		令和2年度 第17期		令和3年度 第18期		令和4年度 第19期	
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
資産の部合計	A	10,694千円	35.2%	10,544千円	▲1.4%	14,463千円	37.2%	13,437千円	▲7.1%	14,280千円	6.3%
流動資産	B	10,292千円	45.4%	10,423千円	1.3%	14,432千円	38.5%	13,417千円	▲7.0%	14,272千円	6.4%
固定資産	C	402千円	▲51.9%	121千円	▲69.9%	31千円	▲74.4%	20千円	▲35.5%	8千円	▲60.0%
繰延資産		0千円		0千円		0千円		0千円		0千円	
負債の部合計		2,734千円	▲11.1%	2,208千円	▲19.2%	4,168千円	88.8%	2,481千円	▲40.5%	3,031千円	22.2%
流動負債	D	2,489千円	4.5%	2,161千円	▲13.2%	4,168千円	92.9%	2,481千円	▲40.5%	3,031千円	22.2%
(うち借入金)	E										
固定負債		245千円	▲64.8%	47千円	▲80.8%	0千円		0千円		0千円	
(うち借入金)	F										
純資産の部	G	7,960千円	64.7%	8,336千円	4.7%	10,294千円	23.5%	10,955千円	6.4%	11,249千円	2.7%
資本金		18,000千円	0.0%	18,000千円	0.0%	18,000千円	0.0%	18,000千円	0.0%	18,000千円	0.0%
利益剰余金等		▲10,040千円	23.7%	▲9,664千円	3.7%	▲7,706千円	20.3%	▲7,045千円	8.6%	▲6,751千円	4.2%
健全性指標	債務超過の有無 (G)	目標: 無	無	無	無	無	無	無	無	無	無
	自己資本比率 (G/A)	目標: 50%以上	74.4%	21.8%	79.1%	6.2%	71.2%	▲10.0%	81.5%	14.5%	78.8%
	流動比率 (B/D)	目標: 150%以上	413.5%	39.1%	482.3%	16.6%	346.3%	▲28.2%	540.8%	56.2%	470.9%
	固定比率 (C/G)	目標: 100%以下	5.1%	▲70.8%	1.5%	▲71.3%	0.3%	▲79.3%	0.2%	▲39.4%	0.1%
	借入金依存度 (A/E+F)	目標: 前年比較減	0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%

(2) 損益計算書		(平成30年4月1日～平成31年3月31日)		(平成31年4月1日～令和2年3月31日)		(令和2年4月1日～令和3年3月31日)		(令和3年4月1日～令和4年3月31日)		(令和4年4月1日～令和5年3月31日)	
項目	A	平成30年度 第15期		平成31年度 第16期		令和2年度 第17期		令和3年度 第18期		令和4年度 第19期	
		決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減	決算額	前年比増減
営業収益		60,993千円	▲0.3%	61,221千円	0.4%	54,867千円	▲10.4%	58,465千円	6.6%	66,237千円	13.3%
営業費用		62,311千円	2.2%	60,751千円	▲2.5%	52,717千円	▲13.2%	57,369千円	8.8%	65,636千円	14.4%
(うち売上原価) (対営業収益比率)		(25,366千円)	(41.6%)	(24,521千円)	(40.1%)	(17,994千円)	(32.8%)	(19,488千円)	(33.3%)	(24,835千円)	(37.5%)
(うち人件費) (対営業収益比率)		(36,945千円)	(60.6%)	(36,230千円)	(59.2%)	(34,723千円)	(63.3%)	(37,881千円)	(64.8%)	(40,801千円)	(61.6%)
〈営業損益〉		▲1,318千円	▲812.4%	470千円	135.7%	2,150千円	357.4%	1,096千円	▲49.0%	602千円	▲45.1%
営業外損益		4,629千円	462,800.0%	91千円	▲98.0%	14千円	▲84.6%	0千円		46千円	
〈経常損益〉		3,311千円	1,680.1%	561千円	▲83.1%	2,164千円	285.7%	1,096千円	▲49.4%	602千円	▲45.1%
〈当期純損益〉		3,126千円	312,500.0%	376千円	▲88.0%	1,958千円	420.7%	660千円	▲66.3%	294千円	▲55.5%

〈評価分析〉	自己資本比率が平成30年度以降70%以上で推移しており、借入金もなく、財務状況は健全と言える。流動比率も高く、経営面での安全性も高い。
--------	---

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度																																				
出資金	8,750千円	8,750千円	8,750千円	8,750千円	8,750千円																																				
負担金、補助及び交付金																																									
指定管理料	1,754千円	2,024千円	7,165千円	8,562千円	4,429千円																																				
その他 (道の駅管理委託料)	5,690千円	5,740千円	5,780千円	5,780千円	5,780千円																																				
備考	〈指定管理料〉 <table border="0" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:10%;">H29</td> <td style="width:10%;">H30</td> <td style="width:10%;">H31</td> <td style="width:10%;">R2</td> <td style="width:10%;">R3</td> <td style="width:10%;">R4</td> </tr> <tr> <td>ひた朝日村</td> <td>(-)</td> <td>(-)</td> <td>4,930千円</td> <td>5,205千円</td> <td>2,103千円</td> </tr> <tr> <td>(朝日やすらぎ館)</td> <td>403千円</td> <td>403千円</td> <td>385千円</td> <td>556千円</td> <td>556千円</td> </tr> <tr> <td>(朝日こだま館)</td> <td>233千円</td> <td>233千円</td> <td>446千円</td> <td>512千円</td> <td>500千円</td> </tr> <tr> <td>胡桃島キャンプ場</td> <td>777千円</td> <td>1,118千円</td> <td>1,193千円</td> <td>1,179千円</td> <td>2,287千円</td> </tr> <tr> <td>〈納入金〉</td> <td>(1,440千円)</td> <td>(1,440千円)</td> <td>(1,179千円)</td> <td>(773千円)</td> <td>(857千円)</td> </tr> </table>					H29	H30	H31	R2	R3	R4	ひた朝日村	(-)	(-)	4,930千円	5,205千円	2,103千円	(朝日やすらぎ館)	403千円	403千円	385千円	556千円	556千円	(朝日こだま館)	233千円	233千円	446千円	512千円	500千円	胡桃島キャンプ場	777千円	1,118千円	1,193千円	1,179千円	2,287千円	〈納入金〉	(1,440千円)	(1,440千円)	(1,179千円)	(773千円)	(857千円)
H29	H30	H31	R2	R3	R4																																				
ひた朝日村	(-)	(-)	4,930千円	5,205千円	2,103千円																																				
(朝日やすらぎ館)	403千円	403千円	385千円	556千円	556千円																																				
(朝日こだま館)	233千円	233千円	446千円	512千円	500千円																																				
胡桃島キャンプ場	777千円	1,118千円	1,193千円	1,179千円	2,287千円																																				
〈納入金〉	(1,440千円)	(1,440千円)	(1,179千円)	(773千円)	(857千円)																																				

5. 課題等

項目		市所管課	団体
S W O T 分 析	内部分析	強み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域内に特産品販売店や飲食店が少ないため観光客の利用が多い。 ・地元の新鮮な野菜は観光客や地域住民へのニーズが高い。 ・地域の中心部に立地しており住民が集まりやすい。 ・グランドゴルフ場がある為、高齢者の利用がある。
		弱み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝日地域の人口減少や高齢化に伴う担い手不足 ・資本金依存の経営体質
	外部分析	機会	<ul style="list-style-type: none"> ・上ヶ洞トンネル開通や高根町側の国道361号線改良や高地トレーニングエリアとの連携により、客足の増加が見込まれる。 ・キャンプブームによる、キャンプ場利用客の増加
		脅威	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスや災害、天候不良などの予期せぬ事態が発生した際に来客数が減少する。 ・地域人口の減少や高齢化による顧客の減少
事業面 (必要性、公益性、採算性、収益性など)		<ul style="list-style-type: none"> ・地場産品などの物販の拠点であり、地域住民の雇用による住民のやりがいの創出、観光客の受け入れによる外貨の獲得、地域住民等の交流の拠点、地域の魅力の発信等に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅は地域の中心的な位置にあり、地域の交流場にもなっており、また特産品を販売することにより利用者の立ち寄りがある。 ・キャンプ場は利用者の増加が期待できる。
財政面 (財務状況の現状や将来の見通しなど)		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響により営業利益が落ち込んだが、営業収益は戻りつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の決算は赤字ではない。 ・冬季の売り上げ確保が重要課題となっている。
施設・設備 (所有する建物や設備等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・市の施設であるため、所有する資産はなし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・建物はまだ大きな修繕必要ないが、設備(家電製品等)が道の駅開設以来更新できていないものもあり、更新が必要になると判断される。 ・キャンプ場についても、コテージに設置してある電化製品の更新が必要。また、避難小屋等の改修も必要と思われる。
組織・人員体制 (役員や従業員等の状況など)		<ul style="list-style-type: none"> ・常勤従業員1名と臨時雇用に頼る部分が多くマンパワーに欠ける。 ・常勤従業員はまだ50代であるが、その後の後継者候補の選定が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・取締役7名(代表含む) ・監査役2名 ・職員1名・臨時雇用8名
公共施設等総合管理計画 (方針と今後の考え方)		道の駅：継続 胡桃島キャンプ場：譲渡 胡桃島キャンプ場ロッジ：高地トレーニング施設として継続	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ場について、コテージ部分、キャンプ場部分は一体の運営で成り立っており、切り放しての運営は考えにくいと判断する。
自由記載 (団体や事業の今後のあり方や果たすべき役割について)			